

環境ストックを活かしたグリーン・ツーリズムの計画手法の開発
 - 栃木県北部エリアを事例として -
 Development of Green Tourism planning method utilized environmental stock
 - A case study of the northern part of Tochigi Prefecture -

○小島 英揮* , 田村 孝浩**
 KOJIMA Hideki , TAMURA Takahiro

1. はじめに 都市住民の期待に応えつつ農村の活性化を図る取り組みとして、グリーン・ツーリズム(以下、GT と略)が日本各地で着手されている。しかし、西欧諸国とは対照的に、我が国では日帰り型の GT 活動が卓越している¹⁾。我が国の GT に関する既往研究から、GT の多くは既存の観光活動との複合的な活動であること²⁾、自然資源を活用することの重要性と可能性が示唆された³⁾。GT 活動を展開するためには、顕在化した資源のみならず遊休農地や廃校舎等の潜在的な環境ストックも活用した GT プログラム(旅程)を作成することが重要と考えられる。そこで本研究では、地域に潜在する環境ストックを用いた GT の計画手法を開発することを基礎として、事例地区を設定し環境ストックの賦存状況に応じた GT プログラムを試作することを目的とする。

2. 研究の方法 事例地区の選定にあたっては観光資源が豊富であること、交通網の整備状況、自治体による GT 活動の取り組み状況を考慮し、栃木県北部に位置する那須町と那須塩原市、大田原市に選定した。展開可能な GT パターンを導出するために、本研究では図 1 のような方法を採用した。具体的には、環境ストックや農地の貸与意思等をデータベースにし、事例地区における供給ポテンシャルを作成する。続いて、現在行われている GT 活動を複数の GT パターンに類型化し、各パターンに必要な環境ストックを観光学の知見⁴⁾に基づいて整理する。この GT パターンを先に作成した供給ポテンシャルマップに重ね合わせることで、事例地区における GT 活動を明確にする。これを実践するためには、コスト等を明らかにする必要がある。そこで、展開可能と判定された GT パターンに GIS のネットワーク分析を施し、コスト等を考慮した GT プログラムを試作した。

3. 結果と考察 1)供給ポテンシャルマップ 事例地区における農村レストランや直売所といった物理的条件と、遊休農地といった心理的条件、さらに既往研究⁵⁾⁶⁾の成果を踏まえて供給ポテンシャルマップを作成した(図 2)。環境ストックの賦存状況の多寡から、事例地区を 5 つのエリアに分類した。

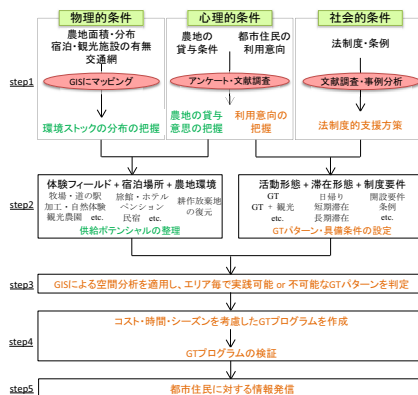


図 1 研究の流れ
 Fig.1 Flow of research

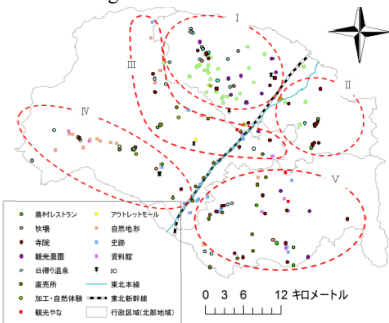


図 2 事例地区の供給ポテンシャルマップ
 Fig.2 Potential supply map in district case

所属：*宇都宮大学農学研究科 , Utsunomiya Univ. Graduate School of Agriculture , **宇都宮大学農学部 , Utsunomiya Univ. Faculty of Agriculture , キーワード：グリーン・ツーリズム, 環境ストック, 農村振興

2)GT活動と環境ストックとの対応表 現在行われているGTの活動を観光学の視点から類型化し、その活動を行うために必要な環境ストックとの対応表(GTパターン)を作成した(表1)。

3)GTパターンの判定 GT活動の展開可能性を判定するため、GTパターンと供給ポテンシャルマップを照合した結果、表2を得た。

4)GTプログラムの試作 展開可能と判定されたGTパターンを実践させるためには、旅行経費と所要時間、シーズンを把握することが重要な要素となる。旅行経費は施設の利用料金と交通費から、所要時間は移動時間と滞在時間から構成されるものとした。このうち、施設の利用料金と資源の利用可能時季については、関係するHPやパンフレットから調査した(表3)。また各エリアに点在する資源を巡回する際に必要となる交通費と移動時間については、130円/ℓ、10km/ℓ、30km/hと仮定し、ネットワーク分析により交通費と移動時間を算出した。冬季における日帰り型のGTプログラムを想定して、旅行経費5000円以下、所要時間7時間以内の条件を満たすプログラムを抽出し、事例地区において合計85個のGTプログラムを試作した(表4)。

4. おわりに 本研究では、事例地区における環境ストックの賦存状況に応じたGTパターンを判定し、コスト・時間・シーズンを考慮したGTプログラムを試作した。潜在化した環境ストックを顕在化させる道筋を示すことができたと考えられる。今後は、全てのシーズンにおけるGTプログラムを作成すること、試作したGTプログラムがゲストに受け入れられるかを検証することが必要である。さらに法制度に関する課題とその改善方法を明らかにするとともに、GT活動を行うために必要となる環境ストックの選定を吟味することも重要であると考えられる。

謝辞：本研究は科研費若手B(21780221(代表：田村孝浩)の研究成果の一部である。参考・引用文献1) 農林水産省(2011), 食料・農業・農村白書, pp.348. 2)齋藤雪彦・中村攻・木下勇(1998): グリーン・ツーリズムの趨勢に関する研究, ランドスケープ研究 61(5), pp759~762. 3)中島正祐・千賀裕太郎・齋藤雪彦(2001): 農村地域における観光資源に対する来訪者の評価分析-長野県飯山市「なべくら高原森の家」を事例として-, 農村計画学会誌 20巻, pp.197~202. 4)観光学入門(2009), 岡本伸之, 有斐閣アルマ, pp195~204. 5)中村佳史(2007): 那須野ヶ原地域を対象としたグリーン・ツーリズムの実践可能性の評価. 6)結城寿人(2008): グリーン・ツーリズム実践に向けた活動モデルの構築とその適用.

表1 GT活動と環境ストックとの対応表
Table.1 Correspondence table of the GT activities and the environmental stock

GTパターン	目的	移動様式	宿泊	環境ストック
A	鑑賞・体験 (GTのみ)	周遊型	無	「鑑賞」: 遺跡等 「体験」: 観光農園, 直売所等
B		拠点型	無	
C		拠点型	有	
D	鑑賞・体験+活動 (GT+活動)	周遊型	無	釣り, サイクリングに 上記を加えたもの
E		拠点型	無	
F		拠点型	有	
G	保養	周遊型	無	温泉, 別荘に上記2つ を各々加えたもの
H		拠点型	無	
I		拠点型	有	

表2 事例地区におけるGTパターンの判定結果
Table.2 Result of the determination of the GT pattern in district case

エリア/GTパターン	A	B	C	D	E	F	G	H	I
I. 那須町西側エリア			-	○			-	○	
II. 那須町東側エリア		○	-						○
III. 那須塩原市北側エリア				○					
IV. 那須塩原市南側エリア		○			○				○
V. 大田原市エリア	○		-				-	○	

○: 展開可能 -: 本研究では考慮しなかった

表3 エリアIIの資源の利用可能時季と利用料金
Table.3 Charges and time availability of resources of the area II

地域資源	目的	春	夏	秋	冬	金額(円)
遊行庵食堂	食事	○	○	○	○	700
与楽寺	遊覧	○	○	○	○	
普門院		○	○	○	○	
芦野会館		○	○	○	○	
建中寺		○	○	○	○	
三光寺		○	○	○	○	
最勝院		○	○	○	○	
揚源寺		○	○	○	○	
長源寺		○	○	○	○	
正慶寺		○	○	○	○	
正福寺		○	○	○	○	
専称寺		○	○	○	○	
大野りんご園		りんご狩り			○	
芦野温泉ホテル	日帰り入浴	○	○	○	○	1500
東山道伊王野	そば打ち	○	○	○	○	3200
	食事	○	○	○	○	450~1050
	農産物購入	○	○	○	○	500
黒田原直売所	農産物購入	○	○	○	○	500
遊行庵農産物直売所	農産物購入	○	○	○	○	500
日野屋	味噌作り	○	○	○	○	14000/30kg
ペンション散歩道	蜜観察		○			宿泊者のみ

表4 エリアIIのGTパターンBの冬季プログラム(抜粋)

Table.4 Winter program of the GT pattern B of the area II (Excerpt)

行程	利用料金	交通費	旅行経費	移動時間	滞在時間	所要時間
東山道伊王野「そば打ち」 ⇒専称寺～正慶寺「寺院巡り」	2200	400	2600	1.0	6.0	7.0
東山道伊王野「そば打ち」 遊行庵食堂「昼食」 ⇒建中寺～最勝院「寺院巡り」	2200	400	2600	1.0	5.5	6.5
遊行庵食堂「昼食」 遊行庵食堂「昼食」 ⇒建中寺～最勝院「寺院巡り」 ⇒遊行庵「遊覧」	1200	400	1600	1.0	2.0	3.0
	1200	400	1600	1.0	2.5	3.5